

つるうち

広報

平成19年4月1日号

弦打地区の人口

	平成19年 3月1日現在	平成18年度2月実績
男	5,096人	(5,098人)
女	5,329人	(5,333人)
計	10,425人	(10,431人)
世帯数	4,471世帯	(4,420世帯)

弦打校区コミュニティ協議会 Tel882-0285

補助金一元化の流れについて

コミュニティ協議会が活動をしていく上でさまざまな課題や問題点が発生しております。その中でも、最も重要で必要な課題となっておりました補助金の一元化について、行政がようやく動き始めました。

コミュニティ協議会は、地域が主体となって地域づくりの活動をしていくことが原則であり、その自主活動推進のためには、活動資金の確保がされなければなりません。

これまで、地域において組織づくりを主体に進めて参っておりますが、このたび、行政においても、既存の補助金の見直しに取り掛かり、来年度においては下記のとおり一部補助金の一元化がされ、地域コミュニティ協議会が一括して受入れをすることとなりました。

しかしながら、一括してコミュニティ協議会が受入れをしても、それを実行する組織図づくりができていないので、19年度においては、補助金は、既存の団体へそれぞれ交付し、その中で執行をしていくこととなります。

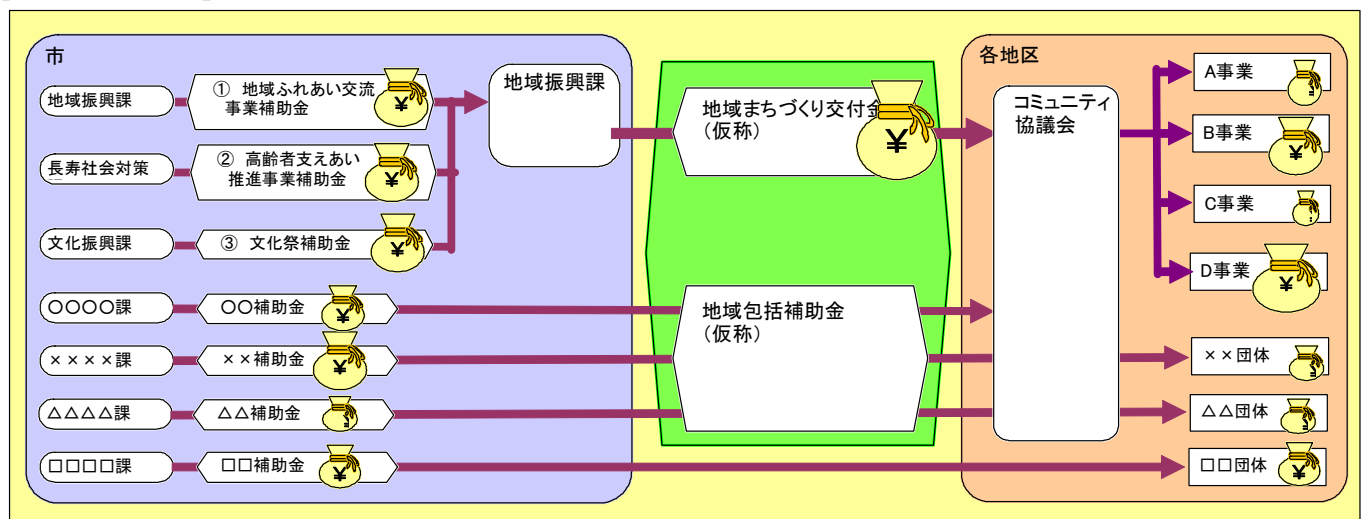
今後は、各種補助金を地域で有効に活用していくためにも、連合自治会をはじめとする各種団体等との地域コミュニティ協議会の連携・協力関係（統廃合を含め）のあり方を検討していく必要があります。

～高松市の資料より～

■ 地域まちづくり交付金（仮称）等の制度化

地区（校区）に支出されている補助金や助成金等のうち、地域ふれあい交流事業補助金・高齢者支えあい推進事業補助金・文化祭補助金を、再編・統合し、「地域まちづくり交付金（仮称）」を創設する。また、その他の補助金等についても、可能なものについては「地域包括補助金（仮称）」として集約を図る。

【一元化イメージ】



■ 枠組みの考え方

1 地域まちづくり交付金

均等割と人口割により構成する。高齢者支えあい推進事業補助金（敬老会事業）・地域ふれあい交流事業補助金・文化祭補助金（地区文化祭事業）をひとつにまとめる。3事業の前年度の地域における取り組み状況を踏まえ、交付額に濃淡をつける。その他、地域の取り組みにより加算金を加える。

2 地域包括補助金（仮称、補助金の集約化）

従来の補助金等のうち、交付先の変更が可能なものについて、地域コミュニティへ交付する。この場合、地域コミュニティ協議会を通じての当該交付対象団体への交付を可能とする。また、地域内で当該交付対象団体との協議が整う地区については、各々の補助金の趣旨を逸脱しない範囲で一定裁量を認めた執行もできることとする。（平成19年度は、自治会活動補助金、衛生組合関係補助金、体育協会補助金、保健委員会補助金等）